

〔古今和歌集十一〕右近のうまばのひをりの目むかひにたてたりける、くるまの下すだれより、女のかほのほのかにみえければ、よみてつかはしける、
在原なりひらの朝臣略〇歌

〔源氏物語九〕よき女房車おほくて、さうくの人なきひまをおもひさだめて、みなさしのけさす
る中にあじろのすこしなれたる、またすだれのさまなど、よしはめるに、いたうひきいりて、ほの
かなる袖ぐち、ものすそ、かざみなど、物の色いとよらにて、ことさらにやつれたるけはひ、ま
くみゆる車、ふたつあり、

〔花鳥餘情六〕あじろのすこしなれたる下すだれのさま、

尼眉には、あを末濃の下すだれをかく、あじろの車には、下すだれをかけずといへども、女房の
乗用するには、八葉の車にも、下すだれをかくる事に侍れば、いづれにても相違なかるべし、

〔枕草子三〕にげなき物

よき家の中門あけて、檳榔毛の車のまろうきよげなる、はし蘇芳の下すだれの、にほひいとよ
げにて、榻に立たるこそめでたけれ、

〔枕草子十一〕御經のことに、あすわたらせおはしまさんとて、中日さしあがりてぞおはします、

御車ごめに十五、四つは尼車、一つの御車はからの車なり、それにつゞきて、尼の車、まろり口よりす
いさうのすゞ、うすゞみのけさきぬなどいみじくて、すだれはあげず、下すだれも薄色のすこし

こゝろ、下、略

〔台記〕保延二年十一月五日己巳、今日參大原野、吉田社、中半蔀車、本雖懸下簾、於東、
久壽元年十一月廿二日辛未、今日右大將、兼藤原密々詣春日、略〇註、奉金銀幣、略〇註、神馬、略〇註、衣冠、半

蔀車、不懸、帷裳、二

〔毛詩註疏三之三〕桑之落矣、其黃而隕、自我徂爾、三歲食貧、淇水湯湯、漸車帷裳、女也不爽、士貳其行、